

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101901
法人名	有限会社ムツミサプライ
事業所名	グループホーム たらみ
所在地	〒859-0401 長崎県諫早市多良見町化屋1235番地 (電話) 0957-43-1682

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成20年1月7日

【情報提供票より】(H19年10月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	14 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 16人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	--------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	円	実費負担	円
敷金	有( 円)	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円	
	夕食	400 円	おやつ	100 円	

### (4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	16 名	男性	6 名	10 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名	
要介護3	2 名	要介護4	3 名	
要介護5	1 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 86 歳	最低	71 歳	最高 101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団淳生会 慈恵病院 小嶺歯科医院
---------	-----------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

慣れ親しんだ地域での生活を継続できる立地条件と利便性に優れ、家族が気軽に訪問できる広い駐車場と解り易い看板を設けてある。リビングの窓が広く、明るい日差しの差し込みは、職員が随時、カーテン等で調節されている。玄関正面に理念を明示され「介護とは我が年老いた母を背負うが如く、父の手を引くが如し」と管理者及び職員の意識の統一と介護方針の確立を図り、現状の入居者を慈しみ安心して生活できるよう家族との連携を図り協力も得られている。職員は、入居者を常に見守りさりげなく接して尊敬と礼節を持ってケアに取り組まれている。入居者が、ゆったりと過ごせるようひとり一人を大切に、管理者の家族が運営される医療機関との連携を図り24時間・365日体制で専門的な看護のレベルアップに努められている。今後の更なる取り組みを期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今後のグループホームに於ける問題にも医療機関との連携を図り、その他の機関との交流で情報を得て、その都度改善に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の取り組みについては、管理者のグループームに於ける課題への取り組み姿勢が感じられるが、職員とも評価の意義を理解して活用できるように項目別に担当を決めて日々の介護の見直しと気付きになるような取り組みの工夫に期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、3ヶ月に1回を目途に、現在2回実施されている。諫早市職員・有識者・地域住民の代表者・家族代表者で構成されて、出席者を固定しない取り組み方で会議の主旨を理解して頂き、議題を設け報告事項・会議の内容に対して双方向的に意見が交わされ有意義な会議を実施されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議に家族の代表者も参加して頂き、家族との面談の機会を設けて家族の意識の共有を図りながら信頼関係の構築に努められている。入居者の病状報告は随時報告を欠かず事無く取り組まれている。ホーム便り、食堂に掲示され訪問された家族に見て頂き外部への配布は控えられている。意見箱を設けてあるが、家族の相談等は管理者が直接対応されている。又、重要事項説明書に苦情受付窓口やその他の機関等を明示されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の認知度も定着して近隣の方から心配して電話での問い合わせや、地域との交流は管理者自ら積極的に取り組まれている。又、近隣の中学校の職場体験学習や高等養護学校の体験実習の受け入れに取り組まれている。</p>

## 2、評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解して、開設時の事業所独自の理念に基づき、社会的意義と責任を深く認識して入居者の権利を尊重し、礼節と尊敬を持って一日一日を大切に充実した日々を過ごせるよう、管理者・職員が一体となって支援に努められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関正面に理念を明示され、日々認識して親しみのある関係を築きながら、快適な生活が過ごせるように、管理者と職員の意識の統一を図り実践に向けて取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事など、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の認知度も定着しており、近隣の方から心配して電話での問い合わせや、地域との交流の場として駐車場でラジオ体操をされたり、管理者自ら交流に努められている。又、近隣の中学校の職場体験学習や高等養護学校の体験実習の受け入れも取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価の意義を理解されており、今後のグループホームにおける問題にも交流を図りながらその都度改善に取り組まれている。今回の自己評価においては、管理者の熱い思いが感じられるが、職員との双方向的な評価の取り組みまでには至っていない。		職員も共に評価の意義を理解して活用できるように、項目別に担当を決め、日頃のケアの見直しと気付きになるような取り組みの工夫を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回を目途に現在2回実施されており、諫早市職員・家族代表・有識者・職員で構成された会議である。会議の主旨を理解して頂き、議題を設けてグループホームの課題(人員配置の増員・文書の簡素化)等参加者から双方向的な意見があり、有意義な会議となるように取り組まれている。		

グループホーム たらみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市職員も参加され、管理者自ら多方面の方々との交流に努め、サービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の家族とは、必要に応じて面談の機会を設けて、管理者や職員と家族の信頼関係を大切に、入居者の生活状況・診断結果の報告など、管理者の判断で家族に報告をされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族の代表を固定せず、会議の都度変わられ意見箱も設けられているが、家族の相談等は管理者が直接対応されている。又、重要事項説明書に苦情受付窓口を設けその他の苦情受付機関等の明示をされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設4年半において、職員の交代数が数回で離職が最小である。ユニット間の異動については事前に馴染みの関係構築と入居者の把握に努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート勤務を経て、日々介護に携わりながら資格を目指す職員もおられ、外部の研修に積極的に参加し、内部研修で職員への報告と共有を図っている。職員相互の質の向上に管理者も理解を深め共に努められている。特に、看護知識の重要性を重んじ研鑽に努められている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、多方面の方との交流があり情報の交換を図り、職員へ情報の共有も図られている。他に、グループホーム連絡協議会・介護支援専門員連絡協議会の定例会に参加され、内部研修を設け、報告と共有を図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者は、認知症が進行していて家庭での生活が不可能に近い方が殆どで、入所に際しては家族との話し合いを十分に重ねて、家族の理解と協力のもと馴染みながらのサービスの利用に繋がられている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者の笑顔に励まされ介護するという一方的な立場ではなく、理念に基づき家族となる意識を共に構築して、常に関わりを持って、支援に努められている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族と話し合い、知り得た情報に基づき入居者の生活歴を記録して、家族の意向に沿って入居者の希望や意向の把握に努めて支援されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の入所希望以前の認知病状の初期診断を家族との面談で詳細に聞き取っている。入居後は、入居者が在宅復帰可能となりうる支援に努めることが出来るように、家族の意見を頂き報告及び同意の上、介護計画の作成に取り組まれている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態の変化が無くても、3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行うが、認知症高齢者の体調は急変することを鑑み、その都度、家族、主治医と話し合いを重ね現状に即した計画を作成されている。</p>		

グループホーム たらみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員が、車椅子利用の入居者を予防注射を受ける為、かかりつけの病院へ同行されており、家族への口頭及び電話での報告も欠かす事無く、受診対応等の支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際、事前に主治医の指示を頂き、入居者の病状変化に管理者及び看護師が連携を取り、対応に努められている。又、他の専門医の往診にも随時支援に努められている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、家族の方針を重視して初診時の診断状況を詳細に聞き取り、管理者は、家族に「入居者の命をあずけてください」と了承を得て、24時間体制で支援され、家族に報告の必要があれば、随時報告をされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシー確保の為に、入居者への言葉掛けは、十分に注意されている。個人情報に関する取り決めは、利用契約書及び運営規定に明示されている。他に、ホーム内には行事の折に撮影した入居者の写真を掲示され、家族の方に見て頂いているが、ホーム便りは、外部への配布は控えられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に、入居者の状況に合わせて体調を考慮した支援に努められている。		

グループホーム たらみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量を把握して、不自由ながらも自分で食事ができるようスプーン等への細かい配慮をされている。ホーム内の庭でバーベキューや行事の機会を活用して職員と入居者が一緒に食事を取る機会を設けられている。ホームでは、入居者の嚆下に注意して専門的な関わりの介護を重視すると共に、見守りを最優先的支援に努められている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の日々の体調に留意して、週3回を目途に清潔を保てるよう入浴支援に努められている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、入居者のできることは手伝って頂き必ず「ありがとう」の言葉を忘れないよう、入居者の力量に応じて支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は不可能でも、天候や入居者の体調を考慮して外出の機会を設け、職員と一緒に買い物に出かけられる等の支援に努められている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は、鍵をかける事の弊害を理解されており、入居者への安全対策を最重要とし、スタッフのチームワークをもって、その生活情報を把握し見守りを欠かす事なく、並行してドアの開閉を状況に応じて判断されている。今後、より開放的な方向を目指し、入居者の出入りに安全が保たれるよう玄関前のスロープの工夫等の改修を計画、検討されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営規定に非常災害対策として、消防法に基づいた防災設備(消火器・自動火災報知機・ガス漏れ警報機等)を設置され、避難訓練は年2回実施(消防署立会いで1回実施)され、タイムを記録して安全確保に努められている。又、管理者の家族が運営される病院との連携により、非常災害時の避難場所として確保されている。		

グループホーム たらみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体調の状態を把握して、刻み・とろみ等ソフト食への配慮もされている自分で完食できる満足感を入居者の表情で感じられた。薄味で食後の片付けを入居者と一緒にされて、できる事への支援に心掛けられている。又、水分確保については、食後のお茶とおやつのお牛乳等で水分摂取不足にならないよう配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、入居者が共に食事をしたりテレビや新聞を見たりできるようにソファ・テレビを配置されている。広々とした窓からの明るい日差しは職員が気付いてカーテンで遮光されたり、入居者が職員と共に笑顔で関わりあえる生活の場として過ごせるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、作り付けの洋服箆箆や収納箆箆・ソファを設けてあり、家族と交流が持てるように配慮した部屋作りに取り組まれている。家族の思いが感じ取れる家族写真や身近な小物・使い慣れた鏡台を持ち込まれ入居者が安心して過ごせるよう配慮されている。		